

6日目 9月24日

会 場： 県立浜山球場

第1試合		～準々決勝～																
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E
大 社	1	0	0	0	3	0	0	0	0							4	6	1
益田東	1	1	0	0	0	0	0	0	X							2	8	1
(投手-捕手)																		
・ (大)	馬庭 - 石原																	
・ (益)	小野→橋本→渡部→今井 - 西山																	
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)					
・ (大)							藤原、藤江											
・ (益)							井坂											
(審判) [球審]	仁科孝			〔一塁〕 流田			〔二塁〕 大谷			〔三塁〕 平井								
(チーム成績)																		
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守備	失	暴	ボ	逸	打妨
(大)	39	6	3	0	2	0	4	5	5	0		0		1	0	0	0	0
(益)	37	8	2	0	1	0	6	1	2	0		0		1	1	0	0	0

### 「大社、三度目の正直で準決勝へ！」

近年対戦の多い大社と益田東の因縁の対決となった。直近2戦は益田東が勝利していて、2回とも大社の先発投手は馬庭だった。この試合も大社は馬庭に先発を託した。

大社は1回表に安打と四球で無死1・2塁とする。3番の藤江がバントエンドランを決めて1死2・3塁とし、4番石原がセフティスクイズを決めて夏のような鮮やかな攻撃で先制点を挙げる。直後の1回裏に2死2塁から4番井坂が甘い幅に入った直球を捉え、適時三塁打で益田東が同点に追いつく。2死3塁と逆転のチャンスだったが5番小野が二ゴロに倒れる。

大社は2回表にも安打と四球、犠打で1死2・3塁とし9番馬庭が2球連続でセフティスクイズを仕掛けたが投手への飛球となると、1番の藤原がセフティバントを試みたが投手の好守備に阻まれる。すると益田東は無死1塁から送りバントが安打となるとすかさず犠打で1死2・3塁とし、9番西山瑠のライトへの犠飛で益田東が逆転して勢いに乗った。3回から益田東先発の小野が落ち着き、前半の要所は益田東が競り勝った形となった。

流れが変わったのは4回裏で大社三塁手の園山が強烈なライナーを好捕する。すると直後の5回表に2死から1番藤原がライト戦に落ちる打球で3塁へ進塁すると、続く園山が四球を選び2死1・3塁と一打逆転の場面を作る。ここで3番の藤江が値千金の適時三塁打を放ち大社が逆転に成功すると、直後に暴投で大きな1点を追加した。馬庭は3回以降落ち着きを取り戻し、益田東打線に得点を許さなかった。大社が三度目の正直を果たし秋季大会では久しぶりの準決勝進出を決めた。

